

Hello! FUJISEI

No.216

厚生労働省「平成25年人口動態統計月報年計（概数）」によると、平成25年の死因順位別の第1位は悪性新生物（がん）の36万4721人でした。

悪性新生物は、一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位の第1位を続けており、平成25年は全死亡者に占める割合は28.8%で、全死亡者の3.5人に1人は悪性新生物で死亡したことになります。

部位によって症状、治療方法、生存率も違い、重粒子線治療も部位によって有効性は異なります。

悪性新生物について死亡数・死亡率を部位別にみると、男性の「肺」

部位別にみた“がん”

男性は「肺」が急増 女性は「大腸」も

は上昇傾向が著しく、平成5年に「胃」を上回って第1位となり、平成25年の死亡数は5万2039人、死亡率（人口10万対）は85.1となっています。

女性の「大腸」と「肺」は上昇傾向が続いており、「大腸」は平成15年に「胃」を上回って第1位となり、平成25年の死亡数は2万1838人、死亡率は33.8となっています

肺がんの症状には、治りにくいせきや胸の痛み、息切れ、血痰、声がれなどがありますが、進行しないと症状が出ないことも普通で、手ごわいがんの代名詞とも言われます。禁煙と早期発見が非常に重要です。

がんのなかで大腸がんによる死者数は男性は3位、女性は1位です。食の欧米化に伴って、大腸がんになる人は急増しています。しかし、早期であれば完治が可能で、治癒率の高いがんです。

大腸がんは、がんのできた場所によって直腸がんと結腸がんに分けられます。なかでも直腸やS状結腸にできることが多く、ここにがんができた場合、便の表面に血液や粘液が付く、便が出にくい、便が細くなる、肛門に違和感がある、便秘と下痢をくり返すなどの自覚症状が現れることがあります。しかし、早期にはほとんどが無症状です。

悪性新生物の主な部位別死亡率（人口10万対）の年次推移

